

涙道手術後のドライアイ



鎌尾 知行 Tomoyuki Kamao
愛媛大学医学部眼科学教室 講師
E-mail: t-kamao@m.ehime-u.ac.jp

KEYWORDS

ドライアイ, 流涙症, 涙道閉塞症,
涙道手術

眼表面の涙液量は、涙腺からの分泌量と涙道からの排出量のバランスで規定されており、このバランスが崩れると疾患を発症する。つまり、分泌量が相対的に減少すればドライアイに、逆に排出量が減少すれば流涙症になる。眼表面の涙液量の観点から流涙症とドライアイは対極の位置に存在すると思われるが、その間には連続性があり、生体では流涙症またはドライアイにならないように眼表面の恒常性維持機構により中央に戻ろうとする力が働く。しかし、このバランスが崩れていずれかの方向に傾くと流涙症またはドライアイを発症する。さらに両疾患とも治療により対極の状態になることがある。つまり、ドライアイの治療により流涙症を発症するということである。代表的な例としてはドライアイに対する涙点プラグであり、上下涙点とも閉鎖すると流涙症を生じることがしばしば経験する。逆もまたしかりで、流涙症の治療によりドライアイを発症することも当然ながらある。

流涙症の代表的疾患は涙道閉塞症である。我々は涙道閉塞症 127 例に対し、涙道内視鏡下涙管チューブ挿入術を施行し、チューブ抜去後 6 ヶ月で検査を施行したところ、15 例 (11.8%) がドライアイと診断された (2006 年診断基準)。涙管チューブ挿入術後早期からドライアイの所見が観察されたことより、涙道手術後のドライアイは新たに発症したのではなく、潜在的に存在していたものが術後に顕在化したと考えられる。

涙道手術後のドライアイの治療

涙道手術後にドライアイが顕在化した場合、まず点眼を開始する。先の調査では、涙道手術後ドライアイ 15 例の内 11 例 (73.3%) が点眼治療を要し、人工涙液やヒアルロン酸ナトリウム点眼液、最近ではジクアホソルナトリウムやレバミピド点眼液が上市されており、ドライアイの病型にあわせて処方することができる。しかし定期的な点眼が必要となり、患者に一時的、時には一生の身体的・精神的・経済的負担を強いること



図 1. 涙管チューブにより cheese wiring を生じた下涙点

70 歳女性。鼻涙管閉塞症に対し涙道内視鏡下涙管チューブ挿入術を施行した。術後下涙点に cheese wiring が生じた。術後 3 ヶ月でチューブを抜去したが、下涙点に生じた裂隙は縮小しなかった。